

写真

でみる

脳血管障害の針灸治療

せいのおうかいきょう
「醒脳開竅法」の理論と実際

天津中医学院第1附属医院院長

石学敏教授著 兵頭 明監訳＋学校法人後藤学園中医学研究室訳

■ B5版上製 ハードカバー装 128頁 写真163枚 ■ 定価4,200円(税込)(〒260円)



◇脳血管障害の画期的療法

過去、針灸は脳血管障害に対しては、主にその後遺症の治療に終始してきました。言わば、受動的、補助的な治療を行ってきたといえます。しかし、いま、石学敏教授の開発した「醒脳開竅法」は、はじめて脳血管障害そのものに対して、積極的な治療を行う針灸療法を世界の医療界に提起しました。たんに後遺症に対処するだけでなく、後遺症そのものを「残さない」ことを目標に入れたうえ、さらに脳血管障害の早期回復を可能とする方法を開発したのです。

◇治療の最前線に登場する針灸

この治療法が医療界で受け入れられれば、脳血管障害の治療は大きく変貌するでしょう。本療法は発症3ヵ月以内に治療を開始すると、過去2959例で96.42%の有効率を示したといわれます。死亡率が低下し、ADLが向上することについては特に注目されています。やがて手術より先に針治療が優先される時代が来るでしょう。

◇針灸の地位の変化をもたらす

これまで、針灸は運動器疾患の治療が主でありましたが、本療法の普及と発展によって、針灸の治療対象疾患は広範囲に広がるばかりでなく、救急治療の分野においても一定の役割を果たすことが可能になります。石学敏教授が院長を勤める天津中医学院第1附属医院は、まさにこのような針灸を主体とする救急の総合病院で、「病院針灸」のモデルを提供しています。

◇本書では、「醒脳開竅法」のノウハウのすべてを連続写真で紹介しています。本書は中国を含めて世界で最初に出版された「醒脳開竅法」の解説書です。

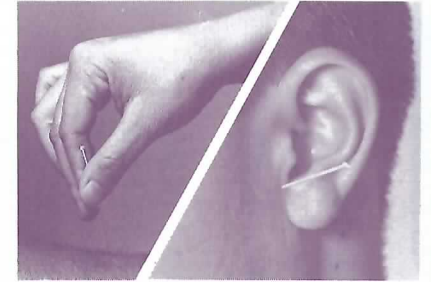
第1章 醒腦開竅法による中風の治療

I 概説

II 醒腦開竅法の基本理論

III 醒腦開竅法の則則・処方・操作

IV 中風後遺症と合併症の治療
口眼歪斜／失語／肩関節痛
内反尖足／失明／難聴
構語障害・嚥下困難／便秘
癱閉／小便点滴／褥瘡



第2章 中風理論の歴史的沿革

第3章 中風の病因病機

第4章 歴代針灸法の紹介

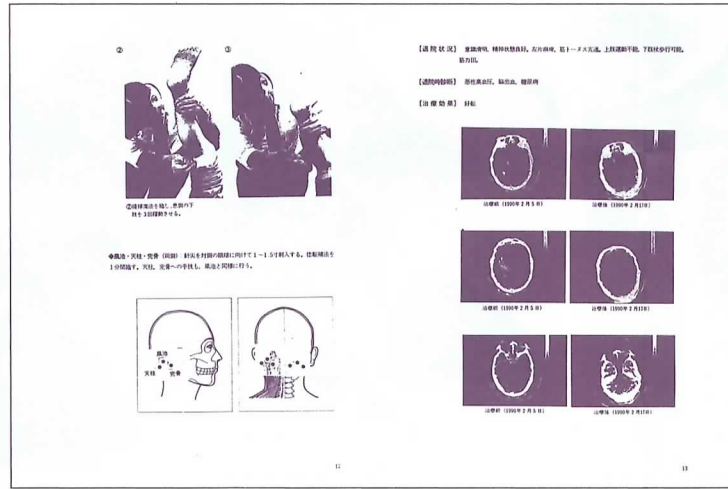
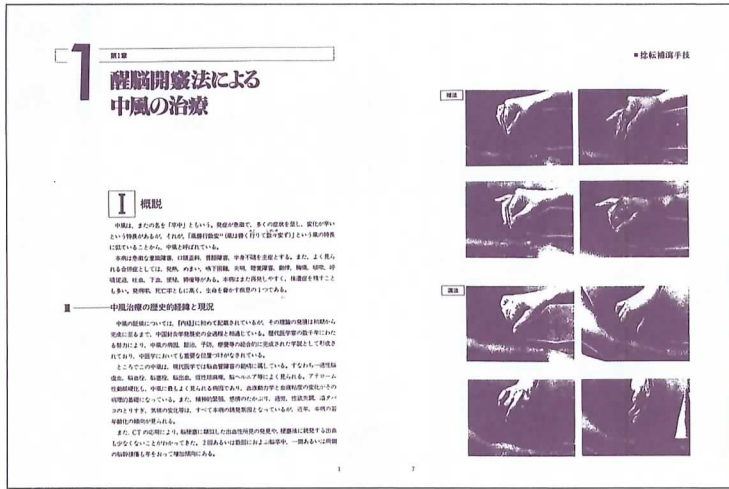
第5章 醒腦開竅法の臨床効果の分析

第6章 醒腦開竅法の基礎実験研究

第7章 CT症例集

付録1 基本補瀉手法

付録2 醒腦開竅法に用いる経穴と刺針技術



高い治療効果, 速効性, 再現性が特徴



石学敏教授

- B5版／上製／128頁／写真163枚
- 定価4,200円(税込) 千260円
- 直接当社にご注文のときは1991年8月31日まで送料無料です

◇「醒腦開竅法」とは……………

◇取穴のパターン化を実現
石学敏教授は古代の治療経験を遍く渉獵したのち、脳血管障害に対する独特の療法を開発しました。中風は「陽經に取る」といって古代から認められた学説を改め、「神を醒ます」ことを柱として、陰經を主とし、陽經を補助とする新しい取穴原則を打ち立て、治療穴を「内関人中・三陰交」の僅か三穴に絞ったのです。この三穴を基本に、随証的に補助穴を取ることによって、脳血管障害のみならず、他の広範囲な疾患にも応用することができます。

◇最大効果を生む「刺針量学」の確立
膨大な臨床研究を通じて、基本三穴が生み出す効果を最大にするための「刺激量」の定量化に成功しました。例えば「人中」では目が涙が潤う程度をメルクマールとしています。このメルクマールを目標にすれば、誰でも同じ最大効果を生み出すことが可能になります。「再現性」こそ本療法の一つの大きな特徴です。

◇重要な刺針手法
本療法は、取穴と刺激量のみならず、刺針手法が極めて重要な要素となっています。巻末に連続写真で基本補瀉手法の解説を行っていますので、これで手法を修得してください。連続写真 一六三枚で刺入部位、角度、深度、操作を説明。

◇巻末の症例ではCT写真でその治療効果を確認することができます。